

東部ニューギニア方面部隊略歴

その二

1365

独立混成第三十八旅団司令部

(カ オー一三〇六部隊)

年 月 日	概 要
自昭和一九八 至 二〇八 「ヌヌマ」防衛作戦	<p>一、ヌヌマ作戦終了後「ヌヌマ」にありて各方面より充足により、独立司令部の機能を有し、活発なる作戦指導に任ず。主力は「ヌヌマ」に位置し、東海岸進出を阻止しつゝ、反期待久を策し、後方「ヌヌマ」大戦を準備す。</p> <p>ヌヌマ作戦により糧秣も予備も一匁五〇に過ぎず糧秣は自活により、甘藷切干の担送による補充状態にして「ヌロキナ」。「ヌヌマ」並に対する峻険峭極する壕窟は日と共に活発化し、九月頃よりカ一隊兵力の消耗甚しく、各部隊より油や兵力を充て昭和二十年三月には、衛生兵もカ一隊歩兵として戦闘指導</p> <p>① タロキナ峠 カ三基兵の戦闘指導 カ一隊兵力(増援兵力を含む)約六〇。(ヌロキナ峠)</p>

(175)

年 月 日	概 要
昭和三〇・八	<p>三五〇 三基英二五〇) は隘路を扼し陣地を強化し崖 々の企図を拒止すると共にへ死回。〇 傷二〇〇位直攻 害を實施するも成らず殆んど全滅す</p> <p>② 又リナ防衛戦争(斗)指揮 好敵を補症反毒を敢行し 濞軍タリナ要威匪入の企図を 座所せしむると共に「クノポホ」方面よりする進歩を阻止 匪帯せしめつゝ任「タリナ」軍需品を「ヌマヌマ」に輸送し 遂次兵力を集結「ヌマヌマ」地区次第準備に任ず</p> <p>三、才三基英放棄し 才ニ基英に於て極力 之が攻毒と次期決戦 準備中 終戦に至る</p> <p>三 旅団は専ら監督の下に「ヌマヌマ」より陸行部隊団により陸路 「タロキナ」に収容せられ 十一月海路「ファウロ」島に移駐し 帰還す</p>

(176)

1367

独立混成第三十八旅団砲兵隊

(カオ一三〇七部隊)

写 月 日	概 要
昭和一九三七、二五 二〇、八一、九 主カ「アリブワ」地区 防衛戦 昭和二〇、一一、七 二〇、五、四 タリナ防衛戦斗	一、「ボーゲンヒル」島に於て独立混成カ三十八旅団編成の際、カ 十七歩兵団に配属中の野砲兵カ二十三連隊カ一大隊を主体と し、之に解任せる独立山砲兵カ十連隊一ヶ大隊（嶺山、大尉以 下二〇〇名）を加へ編成せらる（簡員 四五〇名） 南部警備隊として「アリブワ」を本部として、南はカ六師団と北 は旅団直轄地区を境界として、東海岸よりバカナ山麓に亘る 地区の警備、並に現地自活により旅団主力正面の「マロキナ」 カ一線補給糧秣の確保に任じ終戦に至る迄大なる輿動要なし 二、カ三中隊は「タリナ」地区警備隊に配属され、所任の歩砲兵を 協カ「クノポポ」、「タヌイ」方面に転進しつゝ、遂次戦斗を実施す 同時「ジガニマ」島に配属せる一少隊は奮戦玉碎す

(77)

ト
の
タ
リ
ニ
ハ
リ
ト
東
甲
ニ
エ
ル
バ
ニ
ア
兵
力

年 月 日	概 要
	<p>三 カニ中隊は五月五日「カムン」に集合（結）南進し五月五日朝 部警備隊に復帰し 同中に復帰せる カニ中隊を併せ警備隊 へ「デベロン」「ライナゴ」「マルビ岬」の各警備を担任す</p> <p>四 昭和ニの耳八月九日戦斗停止により「アリグワ」周辺に集結 し九月二十三日ニ同日カニ、ハ機団を編成 海軍監督下 「タロキナ」に陸行収容せらる</p>

(178)

1369

第四船舶団司令部

期間 会 数 日	主要 作 戦 の 概 要
<p>自昭和一八、三、五 至 一八、七、二五 遼北方面に於ける 船舶作戦</p>	<p>一、昭和一八年二月二十二日軍令陸甲一四号臨時編成下令 三月八日宇品に於て編成完結 同日船舶団司令部の隷下に入り 十九軍司令官の指揮下にすらしめらる 三月七日宇品港発 四月九日「モーゲン」艦 更に五師団長の指揮下に入らしめらる 二、四月二十一日「ブワフワイ」に司令部を置き隷下部隊たる 船 工七オ七陽オニ船工作隊指揮下部隊たる船工四船直の一部を 掌握し 遼北方面に於ける船舶作戦を実施す 兵力船舶団長 松田少将以下三、七〇 三、南東方面の作戦要求に基き大陸支隊に依り司令部のみ南東方 面に転用せらる 七月二十五日「ブワフワイ」発</p>

(119)

1370

<p>期間会戦名</p>	<p>自 加一八七ニ六 至 一八一。三一</p>
<p>主要作戦々々行動業務の概要</p>	<p>一、昭和十八年八月十二日「ラバウル」着 オハ方面軍司令官の指揮下に入る オニ船舶団司令部の「ボ」島前進に伴ひ其の業務を継承、船工 オ一、二、三、四、五、六、七、八、九連隊の各一部船工オ十二、オ一湯、オ 三、四揚陸の各一部を付の指揮し「ラバウル」港に於ける場 船作業及「モーブリテン」島局地輸送を担当す 兵力約四五〇〇</p> <p>二、九月五日 剛方作戦甲オ四五号により 松田支隊を編成せし めらる 司令部はオ六十五旅団司令部と合し 松田支隊司令 部を編成 船舶団長支隊長となる 在「ブルブ」附近オ六十五旅団を主とせる兵力約及魚雷艇の功 害下夜行航行を以て「モーブリテン」島西部要域に在りたる同 旅団にすする人員、資材の稚進補給輸送駆逐艦反着水艦よりの 場陸反同旅団の「ラバウル」への転道に伴う輸送を行う 昭和十八年九月迄 連隊長大佐 川池 葵 庭</p>

(180)

1371

2
の
内

身部ニ
ノ
キ
キ

身
の
一

<p>期 間 分 載 君</p>	<p>昭 一 九 一 九 三 七 五 オ 三 次 ビ ス マ ル ク 嶽</p>
<p>主 要 作 戦 マ シ 行 動 業 務 の 概 要</p>	<p>昭 和 十 八 年 十 月 以 降 陸 隊 長 中 佐 小 島 章 一</p> <p>一、自一九三一至一九四一オ一七師団長の指揮に入り同師団の「ニューブリテン」島「マリラ」地区へ「ニューブリテン」島中実より「ラバウル」への転進に伴う輸送を行う</p> <p>二、ラバウル防衛作戦へ一九四一—一九四二 陸隊は昭和十九年四月より陸上部隊としてオ一十八師団長の指揮下に入り「コロンボ」附近に位置し同地附近の警備及警戒に任ず</p> <p>三、昭和十九年七月十五日晨オ一五陸隊編成と共に之に編入せらる</p>

(18)

1372